

〈速報版〉第一回 しそう移住体験ツアー報告

1. ツアー概要

日程	平成 29 年 10 月 7 日(土)～8 日(日) ※当初 9 月 16 日～17 日が台風で延期	
参加人数	17 名 (募集人数 30 名)	
参加費	大人 3,000 円、小学生以下 1,000 円	
行程	1 日目	10 時 姫路集合 (きてーな宍粟)
		11 時 カフェ遊山 (山崎町)
		13 時 森林セラピー (国見の森)
		17 時 楓香荘
		18 時 食事会、移住者との交流会
	2 日目	10 時 原観光りんご園
		11 時 道の駅みなみ波賀
		12 時 山田の里石垣まつり (まつり、芋掘り、大根掘り)
		14 時 道の駅一宮
		15 時 姫路駅解散

2. 参加者の属性

参加者は 6 組。問い合わせでは女性 1 名 (大阪府在住) もいたが、最終参加は全員が夫婦、姉妹などの家族で参加であった。参加者の居住地は全員兵庫県内で、姫路市 (7 名)、神戸市 (6 名) 6 名、明石市 (4 名) であった。

たいていの人は宍粟市に「1 度は訪れたことがある」(41%) で、全く知らなかった人 (29%) や、位置を知っていた程度 (24%) と続く。

3. 宍粟市の印象

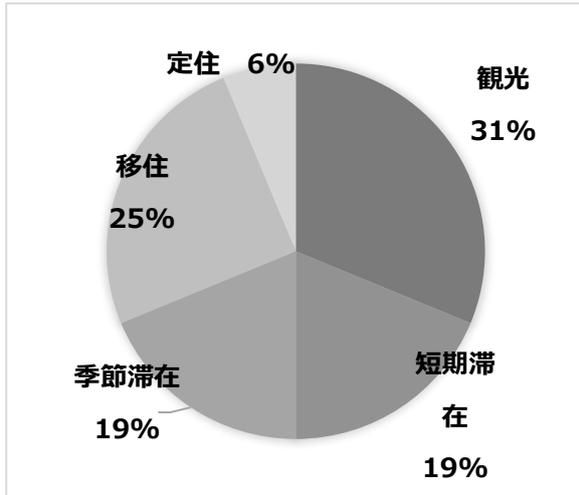
宍粟市の印象が体験前と体験後ではプラスに作用していることが分かる。自然が豊かというイメージはそのままで、「子どもを育てるにはいい環境」「居心地のいい田舎」などの主観が加わっている。(図 1)

ただ、宍粟市の移住・交流に対する考え方には、観光程度と答えている人が 5 名で一番多くとどまるなどし(図 2)、何を体験してもらおうのかが、移住には大きく影響することも分かった。

(図 1) 体験前と体験後の宍粟市の印象

体験前	体験後
森林が多く緑が豊か	森林が多く緑が豊か
自然がいっぱい	川がきれい
アクセスが不便	思っていたより近い
田舎	居心地のいい田舎
農業中心	観光資源の宝庫
	市街地と田舎の差が大きい
	大自然で子どもを育てたりするにはとてもいい環境

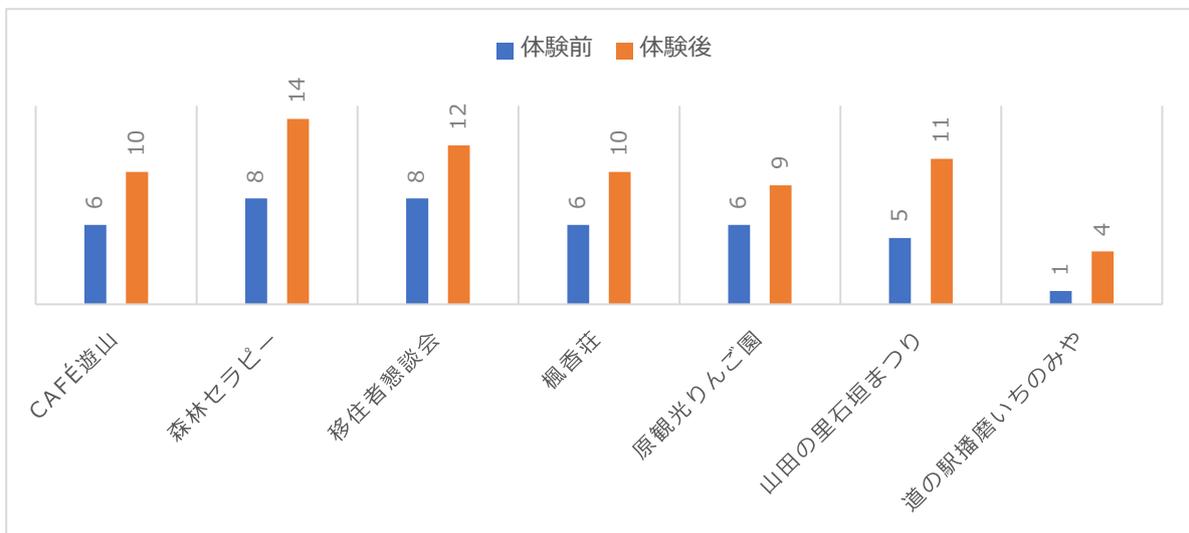
(図2) 宍粟は定住～観光のどれが相応しいか。



4. プログラムの印象

ゆったりとし時間を過ごしていただきたいと、プログラムを少なくしたため、「1つずつの時間がたっぷりにとれてよかった」(14名)や、「いろんな体験ができてよかった」(2名)などがあったが、「移住者というより、観光客を誘致する内容であったため、現実的な話が聞けるプログラムをプラスしてほしい」との声があった。「税金、土地、家賃などの話が聞きたい」などの声もあることから、プログラムに緩急をつけ、前向きに検討してくれる方のニーズに応えられるものを準備する必要もある。

【ツアープログラムで期待していたもの・よかったもの】



5. ツアーに参加して分かった宍粟市の魅力〈自由記入〉

「人の温かみがあり、自然が多い」と森林と川などの自然を通じた心の癒しスポットという魅力があると感じた人が多い。特に「人の温かみ」とあるとの回答もあることから、「癒し」はキーワードとして、宍粟をPRすることができよう。

【回答】

心を癒しにくる場所、自然がいっぱい、水も空気もきれい
質のよい観光スポットが多い、美しい川、農業、飾らない素朴な感じ、
人の温かみ、食べ物がおいしい、不便なところがなさそう

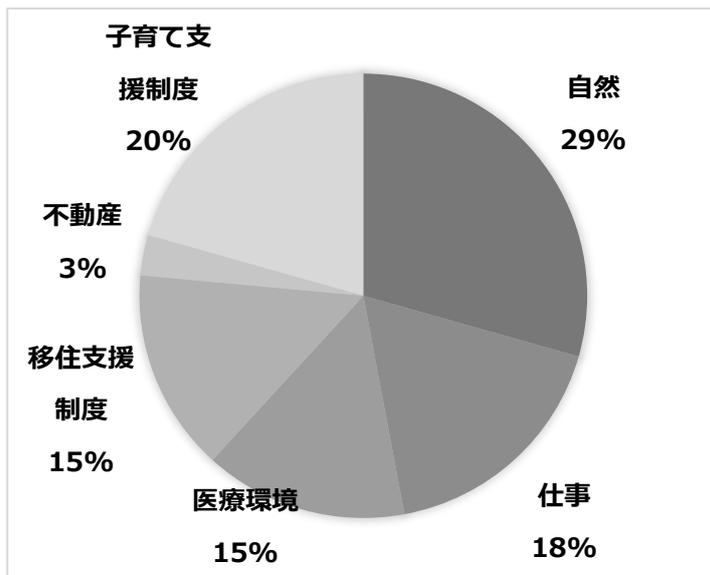
6. ツアーに参加して感じた宍粟市に足りないもの〈自由記入〉

店・交通手段などのハード面の指摘はあるが、ブランディングと発信力、認知度など、「見せ方やPR不足」などの指摘が見られた。

温泉を活かした宿泊施設の充実
ブランディングと発信力、認知度
店が少ない、交通手段が少ない
地元の人との交流、学校

7. 移住で重視するもの

不動産やその周りの自然など住環境とともに、行政の支援策も移住を考える上での判断材料の1つであることが分かる。移住ツアーの中で、「空き家見学をしたい」「地元の方の話を聞きたい」などの意見があったが、移住者だけではなく地元の方との交流会を設けることなども必要であろう。



〈まちやカフェ遊山〉



〈森林セラピー体験〉



〈原観光リンゴ園〉



〈農業体験〉

